

総評

今期は、建設業は資材価格の高止まりによる住宅関連は持家需要の低迷が続いているものの、貸家用や公共工事が堅調に推移し下支えしている。製造業は、農業機械の分野で減産があり、機械加工業の業績を悪化させた。小売業では、米不足報道が過熱し、店頭で品薄状態が続くなどの混乱が生じた。猛暑日が続く、夏物商材や清涼材の需要は増加したが、外出控えによる来店客数の減少も見受けられた。観光関連では、松江水郷祭や夏休み需要の恩恵が見られたものの、消費者の節約志向や豪雨などの異常気象が下押し、横ばい傾向となった。長引く物価高による購買意欲の低迷に加え、深刻な人手不足による受注機会の損失や、継続するコスト増に対する価格転嫁の遅れなど経営課題が山積している。

来期は、行楽シーズンによるイベントや催事での人流の活性化、観光客の増加に期待する一方、引き続き原材料価格やエネルギー価格の高騰が予想され、予断を許さない状況が続くと見込まれる。また労働集約型のサービス産業中心に労務費の価格転嫁が進んでいない中で、最低賃金が58円上昇し、962円となるため稼ぐ力の弱い企業にとってはさらなる人件費負担増が経営の圧迫につながる懸念される。

		前期状況 (1～3月期)	今期状況 (4～6月期)	来期見通し (7～8月期)	調査事業所のコメント
建設業		↗	→	→	今期は、一部では引き合い・受注において好調な様子が見られたが、業界全体で見れば概ね前年並みの水準で推移。建設資材価格についても依然として高止まりを続けるなど収益を圧迫している。また、担い手不足はもろろんのこと、時間外労働の上限規制適用への対応、さらには労務費や資材価格等の高騰を背景とした価格転嫁への取組を含め課題が山積している。 来期は、松江市庁舎第2期棟工事関連等の公共需要はもとより、住宅・商業施設等の民間需要にも期待。
		→	→	→	今期は、農業機械の減産に伴う受注減に加え、鋼材の値上がりを始めとした物価高騰が大きく業況に影響した。材料やエネルギー価格の上昇が長期に亘っており、再三の価格改定が行えず、価格転嫁が追いつかないというケースが散見された。 来期は、業種による格差はあるものの需要が減少傾向にある中、状況改善の兆しは見えず、業態改革が求められる。
		→	→	→	今期は、輸送費の高騰や包装資材価格の高止まりによるコスト増は継続しているものの、猛暑の影響で飲食関係の引き合いが増加し、改善した。一方で、異常気象による農畜産物の供給量や物流の停滞を懸念する声が多かった。 来期は、例年になく猛暑が続いたことによる供給量の減少や度重なる天候不良による不作、物流の停滞の発生を懸念している。
小売業	衣料品	↘	↘	→	今期は、残暑が厳しく来店客が減少した。また、カジュアル化により夏物スーツやジャケットなど高額の商品は売れない状況が続いている。年齢層が若くなるほどファストファッション化が進んでおり、その影響で仕入れ先が廃業し、仕入れに苦労する現象も起きている。 来期は、本格的な秋を迎え、秋冬物のジャケットやパンツ等の動きが良くなること期待される。また、常連客の高齢化により購入単価も減少することも踏まえ、若年層向けのカジュアル衣料も合わせた品揃えにより売上増につなげていくことが期待される。
	家電	→	→	→	今期は、夏のエアコンについて7月は動きが悪かったが、気温上昇により8月は動きが良くなった。8月末の台風10号は物流に影響し納品遅れが生じた。企業向け、個人向けともに電気料金値上げを踏まえ省エネ意識は高い。 来期は、気温が下がることから冬物商品の動きに期待したい。
	自動車	↘	→	→	今期は、一部車種の生産・出荷の一時停止等を要因とした新車販売の停滞傾向が続いたという一方で、セール等によりコンパクトカーを中心とした買い替え需要が底堅く推移したことから、総じて新車登録台数は前年同期比横ばい。 来期は、ガソリン価格の高止まりの影響等による低燃費車・EV車への乗り換えや、堅調なコンパクトカー需要、新型車投入に期待。
業	スーパー	↗	→	↗	今期は、地震や台風などに備えた防災関連商品の需要が高まるとともに、米不足報道による一時的な特需とその反動による欠品が長期にわたるなど、想定外の事態に追われた。猛暑の影響を受け、青果については相場高となり一部の商品は苦戦したが、アイス・氷菓など夏物商材の販売は好調であった。 来期は、猛暑によって秋の味覚の入荷量や価格に影響を及ぼすことに懸念はあるものの、一定の内食需要が引き続き後押しすることを期待。
	特産品	→	→	→	今期は家族等の少人数グループ客の需要が戻りつつある。売上は前年同期比微増ではあるものの、仕入単価についても増加している。販売の価格転嫁は、比較的できている。 来期については、行楽シーズンに入り、各種イベントも開催されることから土産品としての需要に期待。
サービス業	飲食	→	→	→	今期は前期と比べて全体的に不変という状況であった。7月頃には一時コロナが流行った為か客足が減少した。一部の店舗では、同時期に台風の影響で客足の減少があった。 来期は、従業員不足に加え、最低賃金の上昇による人件費の上昇で収益性の悪化を懸念。
	旅館・ホテル	↗	→	→	今期は、前年同期比で客数は減少したが、客単価が上がったため前年並みで推移。客数減少の要因は、全国旅行支援制度の有無が影響している。客単価上昇は、物価上昇に対する価格転嫁や市場全体の価格動向を反映したものの。 来期は、予約が好調だが、最低賃金引上げや社会保険料の適用拡大により人件費の増加が懸念される。
	運輸・旅客	→	→	→	今期は、夏季旅行需要などにより旅客運送では順調に推移していると思われる。乗務員の採用状況は、会社によってバラつきが見られている。運送業では、需要の回復の兆しが見られる。今期も引き続きエネルギーコストの高騰や4月から適用となった労働時間上限制度(2024年問題)により業界を取り巻く環境は厳しさを増している。 来期は、10月からの最低賃金引上げによる人件費高騰などにより収益の圧迫を懸念している。

※売上の前年同期比について ↗ ↘ ↖ ↙ により表しています。